

# ひびきあい

学校だより 12月号

令和5年11月30日

横浜市立新田小学校

校長 村岡 靖

「校長先生！僕たちが育てたサツマイモで大学いもをつくりました。食べてください。」先日、個別支援級の子どもたちが校長室においしそうな大学イモをデリバリーしてくれました。「ありがとう！おいそうですね。大切にいただきます。」と伝えると、とても誇らしそうな顔で、「今日はとっても忙しいんだ。他の先生たちにも持っていかなくてはならないからね。」と言いました。忙しいと言いつつも、自分たちで育てたサツマイモを自分たちで調理して、たくさんの人から感謝される、その喜びに満ちているようでした。ありがとう。とてもおいしかったよ。

数年前に宇宙飛行士の山崎直子さんとお会いした時に、こんな話を聞きました。山崎さんは小学生の時に天体望遠鏡で月面のクレーターや星々を観察したことがきっかけで宇宙に興味をもたれたそうです。

宇宙飛行士になるための訓練は大変厳しいものだったそうです。山崎さんが受けたテストもとても難しかったということでした。全てのピースが真っ白なジグソーパズルを3時間以内で完成させるという課題があったそうです。さすがの山崎さんも真っ白なジグソーパズルを完成させることはできませんでした。でも、実はこのテストで問われたのはパズルを完成させる事ではなく、解決に向けてどのような手段が取れたかを問われていたのです。困難なことがあってもあきらめず、様々な方法を時間いっぱいまで粘り強くチャレンジできることが求められていたのです。山崎さんは平静を保ち、考えられる限りの方法で課題に取り組んだことで、どのような困難な状況でもベストを尽くせることを示したのです。諦めるのではなく、今持っている知識を活用して、自分なりに考えて工夫する事が大切なのです。

子どもたちが思いや願いを実現しようとするときに、思い通りにいかないことも多々あります。そのような時に、工夫や苦労を重ね、いくつものハードルを乗り越え、目標に向かって努力することが大切であり、そこに大きな成長があり価値があります。うまくいかないときは、実はとてもいい学びのチャンスなのです。

私たちが育てていかなくてはいけない子どもは、常に正解を出すような失敗しない子どもではありません。育てるべきは、うまくいかなかったり、失敗してしまった時に、自らの力でそれを乗り越えられる子どもなのです。

最近いろいろな高校の校長先生のお話を伺う機会がありました。高校では「探求」型の教育が多く取り入れられるようになってきています。あらかじめ正解が用意されていない学習で、子どもたちが自ら課題を追求していく学習です。大学入試もそのような方向に向かっているということも聞きました。自分で問題を解決していく過程でこそ、いろいろな人とコミュニケーションを取ったり、論理的に考えたり、知識を活用したりして問題を解決する必然性が生まれます。本校でも先日、指導主事等をお招きして、総合的な学習の時間や生活科、算数科の授業研究を行い、あらためて探求型の授業について学びました。より良い授業をするために今後も研究、研修を続けてまいります。